

## 2014 習志野市青少年海外派遣事業

# 互いの友情を深める貴重な経験

習志野市青少年海外派遣団団長（外国人支援部会長）山口 大二郎

習志野市国際交流協会は地域青少年を対象に、アメリカでホームステイしながら異文化を体験し国際感覚を身に付けてもらおうと、市内の高校生を募集し派遣団を結成しました。この事業はタスカルーサの生徒受け入れと、習志野の生徒派遣とをコラボで実施する初めての試みです。

7月24日12時間のフライトでアトランタに到着、空港ではタスカルーサ国際姉妹都市委員のリサさんと由美さんに迎えられアメリカでの一日が始まりました。

翌日は、アメリカを代表する企業コカコーラの博物館でその発展の歴史展示、アトラクションを見学、人種差別のない平和で平等な社会を訴えた公民権運動家マーティン・ルーサー・キング JR の生家、活動の歴史を展示した博物館を見学しました。その後、歴史地区を回り、3時間のバス旅行でタスカルーサへ。

ジェミソン・マンションでは、先日来日した生徒とホストファミリーの皆さんが>Welcome Narashinoの垂れ幕を掲げて、手を振りながら歓迎してくれました。生徒たちはハグをしながら再会を喜びあっていました。館内ではピアノが演奏され、スナックが用意されていました。資料や便利な日用品、キャンディが入った朱色のギブアウェイが配られ、リサさんの歓迎の挨拶に続き各ホストファミリーと生徒が紹介されました。しばし談笑をした後、生徒たちは嬉しさと不安な表情でそれぞれのホストファミリーに引き取られていきました。

毎日のスケジュールは実に豊富な内容が盛り込まれていました。毎日の行程には必ず何人かの来日した生徒が参加し、場を盛り上げ、

いつも笑いが絶えませんでした。

夏休み中でしたが3校の学校訪問がセットされていました。それぞれの学校ではミュージック・バンドの演奏やチアリーダーの踊りで迎えられ、生徒や先生の案内で図書館、工作室、実験室、体育館、プールや広大な敷地のフィールド・トラック、サッカー場、テニスコートを説明受けながら見学しました。生徒たちはチアリーダーのパフォーマンスに参加したり、新しいデザインを作り出す授業をタスカルーサの生徒と一緒に受けたりしました。最後に体育館に集まり質疑応答がされました。生徒は日本に対する質問に一生懸命説明していました。

アメリカの生活体験では、プールパーティー、ホームパーティー、バーミングハムでのピクニック、アーケードのある商店街ガレリアでのショッピング、ボーリングなどを一緒に楽しみました。

文化面では、アメリカ先住民の風俗、文化を展示したマウンドヴィル博物館、マックウエイン産業博物館、ハンツビル NASA 宇宙ロケットセンターを見学しました。

さらに市が誇りにする10万席のフットボール場ブライアン・デニースタジアム、アラバマ大学のキャンパス、歴史地区では昔の州庁舎跡、歴史的宿泊施設オールド・タバーン、連邦裁判所を回り、市役所を訪問しマードック市長を表敬訪問しました。

今回無理を言って数件のホストファミリーの自宅を見せてもらいましたが、いずれも大きな敷地の中に建てられた住宅で、数台の車があり、生徒たちはそれぞれの個室でリラックスしていたようでした。

アトランタでの最終日、南部料理のレスト

ランで夕食会をしました。そこでは生徒たちから、日本と比較してどんな違いを感じたか、について感想を聞かせてもらいました。みんなが人間性の豊かさ、寛大さ、親切さなどを挙げていました。一緒に楽しんだ休日のアウトドアライフも紹介してくれました。

この派遣では、一般の旅行では味わえない異文化体験や、人とのふれあいなどから互いの友情を深める貴重な経験が出来たと思います。ぜひこれからの人生に活かしてほしいと思います。



アトランタ ハーツフィールド空港で

2週間の研修旅行を終え無事に帰国し、大きな成果があったように思います。今回は生徒同士が既知の仲であったことや NI-Youth 主導の事前研修会、生徒の積極的な行動力がこの事業を成功させた要因だと考えます。

最後にこの旅行を無事に終える事が出来たのは、東邦大学付属東邦高校の長瀬先生、習志野高校の石渡先生、NI-Youth の石野君の協力があったからであり、心より感謝申し上げます。



セントラル高校の授業に参加